鎌倉アカデミア70周年 記念祭で思い出語る ひと

服部博明（はとり ひろあき）さん

「寺子屋大学」とも呼ばれた鎌倉アカデミアの創立70周年記念祭（鎌倉アカデミア創立70周年記念祭実行委員会主催）が6月4日、校舎があった材木座の光明寺で行われる。第1期生で実行委員の一員。「鎌倉アカデミアを伝える会」の会員でもあり、長年アカデミアの資料整理・収集に当たってきた。

1928年、現在の京都府・舞鶴で海軍軍人の長男として生まれた。42年4月、旧制川崎市立橘中学に入学。卒業時、進学先に迷った折、担任から「鎌倉大学校入学案内」を手渡され、勧められた。

アカデミアは終戦翌年の46年5月、鎌倉文化会が母体となって光明寺を仮校舎として開校。当時は「鎌倉大学校」と呼ばれ、「文学科」「産業科」「演劇科」の3科でスタート。産業科1期生として入学。三上次男教授の「考古学研究会」に興味を持つ人部・稲村ケ崎・姥ケ谷工員群発掘調査に参加する。

2年後に校舎が横浜市戸塚区小菅ヶ谷の海軍燃料廠跡（現、栄区）に移った。「鎌倉アカデミア」と改称され、「映画科」が創設された。移転を機に文学科に転科。三上教授の授業のほか、平野謙、片岡良一教授の授業は欠かさず受講。アカデミアは50年9月、財政難のため4年半でその歴史にピリオドを打った。

同年3月に卒業、翌年川崎市役所に就職。税務課勤務を命ぜられる。税務畑一筋を歩む。役所時代を通じ、三上教授が北鎌倉の自宅を開放した私塾「白水会」にも呼ばれ陶器や歴史を学ぶ。

「先生は誰にも真正面から接し怒られた」。

三上教授が87年に死去すると、その膨大な蔵書や資料整理に従事、遺言により出光美術館に寄贈される。その後、鎌倉市中央図書館に寄せられたアカデミア関係の資料整理・収集に取り組む。2006年には「鎌倉アカデミア落穂集」を編集、発行した。

記念祭では講演会や座談会、展示会など多彩な催しが行われる。自らは、三上教授と白水会のエピソードを中心に語る。「アカデミア、三上先生との出会いが自分の人生を支えてくれた。資料整理もほぼ終わり、一区切りついたところ。三上教授から学んだ中国の書家・董琪昌（とうきしょう）の『足老（梅）を覚えない老境を過ごす』の言葉が常に頭をよぎる。『鎌倉市中央図書館に収められた資料が、今後どう活かされるかを見届けたい』。最近の心境である。乗り出で妻と暮らす。87歳。文・写真　浅田勁

戦後の日本を象徴する学び舎が鎌倉にあった―鎌倉アカデミア

かつて鎌倉には、民主国家日本を体現するような大学校があった。その〝寺子屋大学〟は戦後間もない日本に突然現れ、貴重な人的遺産を残して、わずか4年半で姿を消した。鎌倉アカデミア創立70周年記念祭実行委員会委員の平田恵美さん（鎌倉市中央図書館近代史資料室勤務）にうかがった。

一流の先生と生徒が奇跡の出会いを

―そもそも「鎌倉アカデミア」とは。

戦争が終わって、これからどう生きてゆこうかという若い人たちがいた。一方で、知識人、大学の先生方や戦時中には自由にものが言えなかった優秀な先生方が幸運な出会いの場を持ったということです。しかも、出会った場所が鎌倉の、海辺のお寺だった。

先生方の顔ぶれは、三枝博音（哲学者、科学史家）、菅井準一（自然科学史）、林達夫（評論家）、中村光夫（劇作家、小説家）、高見順（小説家、詩人）、村山知義（劇作家、演出家）、吉野秀雄（歌人）、三上次男（考古学者）、服部之總（歴史学者）、宇野重吉（俳優、演出家）、野田高梧（映画脚本家）、久板栄二郎（劇作家）と今もその名が語り継がれているような方々が揃っていました。そしてこの学校に在籍した学生には小説家山口瞳や作曲家いずみたく、放送作家・司会の前田武彦をはじめ戦後日本で活躍した人たちが大勢いました。両者の出会いの場を作ったのが鎌倉アカデミアでした。

―どのような経緯からできたのでしょうか。

別荘地として発展した鎌倉には広い視野で物を考える知識人が多く住んでいました。鎌倉文士という呼称があるように文人も多く住んでいました。鎌倉同人会」などの集い、語らう場も戦前からありました。そのような中から、大学をつくろうという、とてつもない話が盛り上がってきました。

鎌倉は、第二次大戦での空襲の被害がなく、街の前には海があり、緑も豊かで、人材にも恵まれた場所でした。

大学創立を伝える新聞の記事には

鎌倉大學創立 男女共學でゆく

アメリカ式男女共学の大学が鎌倉にできる。名も「鎌倉大學」と呼称し産業科、文學科、演劇科の三科を置き、本科五年制、専門部三年制で開校する。鎌倉山夕日ケ丘に校舎が建設されるまで材木座光明寺地内の假校舎で授業を開始するが入學申込は四月十五日まで―（昭和21年3月17日付神奈川新聞）とあります。

1946年6月に、大学は開校しました。しかし同年4月18日付の神奈川県公報には「私立鎌倉大學校ヲ設置スルノ件昭和二十一年三月三十一日認可セリ」とあります。大学ではなく大学校でした。

―学生数は。

開校時の学生数は、産業科が105人、演劇科が75人、文学科が128人です。映画科は開設時135人でした。

ありし日を証すのは記念碑のみ＝開山堂左横

映画監督に戦前から映画を撮っていた人ですし、女優原節子さんの出演で数々の名作を残した小津安二郎氏（映画監督）、若林一郎氏（演劇科2期生／劇作家）、佐々木達夫氏（1期生）、服部博明氏（文学科1期生）ほか。

―映画科は後に創設されたようですが。

鎌倉アカデミアは開校3年目に大船に移転しています。〝移転を機に〟映画科が設けられました。当時人気があった映画に関する学科をつくったら学生が増えるのでは、と考えたかと思います。松竹大船撮影所が近くにあり抜群のロケーションだったのでは。映画科長を務めた重宗和伸さん（映画監督）は戦前から映画を撮っていた人ですし、女優原節子さんの出演で数々の名作を残した小津安二郎氏（映画監督）、若林一郎氏（演劇科2期生／劇作家）ほか。

―校名の変遷は。

開校時には法人学校の用件を充たしていなかったので、正式には大学校でした。しかも大船校舎移転時に用件を充たしていなかったので「鎌倉アカデミア」と改称したり、先生側もまだ食べ物が十分でない時代にもかかわらず奥さんが食べ物を出してくれたりしたそうです。

優秀で個性的な生徒が多く、先生の教える意欲も高まり、先生同士も刺激しあったといいます。

―どうしてわずか4年で開校に。

不況の時期と重なり、学校経営の行き詰まりだったと思います。開校したが、先生側もまだ食べ物が十分でない時代にもかかわらず奥さんが食べ物を出してくれたりしたそうです。

優秀で個性的な生徒が多く、先生の教える意欲も高まり、先生同士も刺激しあったといいます。

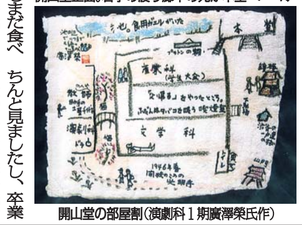
―どうしてわずか4年で開校に。

不況の時期と重なり、学校経営の行き詰まりだったと思います。開校しちゃんと見まもしたし、卒業間近の人には証書を発行しました。在籍した人たちは、先生に大事にされたという実感を強く持っています。わずか4年半しかなかった学校に在籍したことを隠さず誇る人々の学校に対する誇りは、充分理解できます。

―どうもありがとうございました。

鎌倉市中央図書館

☎0467・25・2611



開山堂正面。右手の渡り廊下の先が本堂

開山堂の部屋劇（演劇科1期廣澤榮氏作）

光明寺の寺房を仮学舎に

―どのような経緯でお寺に間借りを。

大学をつくろうと話し合いをされていた人の中には長谷寺や大覚寺など寺院の関係者もいました。そのような中で材木座の光明寺を賃貸してもらえることになりました。

主に本堂左手の開山堂を間仕切りして教室とし、一部の授業は本堂で行っていたようです。ところが開校2年目に寺院の目的外使用が法に触れることから移転することになりました。

1948年（昭和23）4月に横浜市戸塚区小菅ヶ谷の海軍燃料廠跡（現栄区役所敷地）に移転しました。

―校名の変遷は。

開校時には法人学校の用件を充たしていなかったので、正式には大学校でした。しかも大船校舎移転時に用件を充たしていなかったので「鎌倉アカデミア」と改称しました。三枝校長の研究するプラトンの「学園アカデメイア」に因んで命名したそうです。

―学内の雰囲気は。

先生と生徒がすごく親密な関係でした。先生の家まで押しかけて話を聞いたり、先生側もまだ食べ物が十分でない時代にもかかわらず奥さんが食べ物を出してくれたりしたそうです。

優秀で個性的な生徒が多く、先生の教える意欲も高まり、先生同士も刺激しあったといいます。

―どうしてわずか4年で開校に。

不況の時期と重なり、学校経営の行き詰まりだったと思います。開校しちゃんと見まもしたし、卒業間近の人には証書を発行しました。在籍した人たちは、先生に大事にされたという実感を強く持っています。わずか4年半しかなかった学校に在籍したことを隠さず誇る人々の学校に対する誇りは、充分理解できます。

―どうもありがとうございました。

鎌倉市中央図書館

☎0467・25・2611

大船移転直前の記念写真＝鎌倉市中央図書館蔵

鎌倉の失われた風景 ㉕

笹目ヶ谷・星野天知旧居

島本　千也

笹目ヶ谷の中ほどに星野天知の山荘（暗光庵）があった。天知はマルチな才能をもった人物であった。日本橋に在った実家の砂糖商は弟に譲り、明治女学校に務める教育者、『女学雑誌』のち『文學界』の編集人、柳生心眼流の宗家、書家、山林経営者としても活躍した。

母が雪ノ下の本陣大石家の出であったことから、大石家内に鎌倉の別宅を所有していた。明治26年8月、笹目の谷戸の奥に山荘をつくりそこへ住むようになった。鎌倉がようやく別荘地としてひらけてきた頃で、谷戸の入り口近くに島津家の別荘があるだけだった。

天知の山荘には多くの歴史上の人物が訪れている。明治女学校の生徒であった星良子（相馬黒光）、『文學界』の北村透谷・島崎藤村、鎌倉在住の海江田信義、津田仙、九鬼隆一ほか、柳田国男や高橋是清などである。

天知の自伝『黙歩七十年』の中には明治史を名残した多くの人物の名やエピソードが記されている。鎌倉女学院の初代教頭は天知であった。

高浜虚子の二女、立子は天知の息子吉人へ嫁ぎ笹目ヶ谷に住む。立子の住居となってからここでたびたび句会が開かれた。

木犀や明治の文化この谷に

昭和18年10月12日、鎌倉笹目・星野宅、二百二十日会にて。

天知の山荘は平成10年頃失われ、跡地は数軒の住宅に分譲された。記憶をたどめるものは虚子の俳句のみである。平成23年、その一画に「文學界」星野天知　星野立子の顕彰碑」が建てられた＝写真。碑文には次のように記されている。

「ここ笹目は、明治の教育・文学に寄与した星野天知とその息子。星野吉人に嫁いだ女俳人星野立子が住んだ場所である。星野天知は、明治女学校で教鞭をとりつつ女性文学誌『女学生』誌の主筆となり、後に『文學界』編集人として北村透谷・島崎藤村・樋口一葉など明治の文運を師走れ、たちを支えた。（後略）」

各地に無くもがなの石碑が多い。しかし、この石碑は鎌倉と『文學界』の作家たちの関わりを示す原点で、明治の記憶を留める場所である。鎌倉にとって忘れてはならない大切な記念碑である。

鎌倉アカデミア創立70周年記念祭

日にち　6月4日
場　所　材木座光明寺
＊午前10時～　書院
＊ゆかりの方々よりご挨拶
＊講演と座談会「学びの原点をたずねて―鎌倉アカデミア」
寺崎昌男氏（教育学者）／山崎雅子氏（立教大学）／渕上皓一朗氏（岩波書店）
＊思い出の授業を再現「演劇科教授　青江舜一郎先生」若林一郎氏（演劇科2期生／劇作家）「考古学者三上次男先生」服部博明氏（文学科1期生）佐々木達夫氏（三上先生私塾三水会会員／考古学者）
＊座談会「鎌倉アカデミアから未来の学びの種を撒く」ルートカルチャー（有志）／企画制作団体chameleon／吉野家ほか

シローおじさん

▼午後2時～　本堂
＊法要　声明念仏
＊人形劇団「ひとみ座」公演　★シローおじさんのひとり芝居「花咲かじいさん」★くるしまたけひこ人形劇場「トラの子ウーちゃん」
＊朗読
＊コーラス　鎌倉市民混声合唱団　鎌倉アカデミア学生歌ほか
▼展示　午前10時～午後5時30分　開山堂
＊鎌倉アカデミア回想展＆劇団ひとみ座人形作家片岡昌作品展示

【展示ミニ特集】
創立70周年 鎌倉アカデミア
7月10日まで鎌倉文学館。アカデミア関係者のノートや発行雑誌、書籍を展示。
「かつて熱い時代があったこと、新しい時代を創ってゆこうという熱意を感じてください」（小田島一弘副館長）。

鎌倉市倫理法人会 通信

いのち 鎌倉！ ㊳

成功への土陣

歴史と伝統のある鎌倉を梁山泊に！

心の栞…いい言葉との出会い

一年365日、毎年同じように季節は巡り月日は流れていきます。6月は一年前半の締めくくり。夢中で歩いた半年を振り返る月でもあるように思えます。

「あっという間だったね…」「年々、月日の流れが速く感じるね…」そんな会話を交わしながら、今一度足元を確かめてみたくなりませんか？同じように過ぎていく毎日でも、降りかかる困難は様々。思いもよらない出来事に巻き込まれたり、家族が病気になったりと、予期せぬ困難ほど心が折れそうになるものです。

先日ある雑誌の中で見つけた素敵な言葉をご紹介しましょう。

『生きることは一筋縄ではいかない。予期せぬことも起こる。くじけそうになって、強い意志が必要になる時だってあるさ。そんな時、

アジサイ

健康百科 通信 ㊻

緑内障検診のすすめ

日本眼科学会認定眼科専門医　福田　匠

日本人における視覚障害原因の第一位は緑内障です。また、日本の疫学調査によると、40歳以上の20人に1人は緑内障で、なんと約8割の方は、自分が緑内障であることに気づいていませんでした。

眼球の中には房水という水があり、外向きに水圧（眼圧）がかかっています。緑内障では、眼圧が視神経を圧迫障害し視野欠けますが、その速度は遅く気づいたときには進行してしまっていることもあります。

通常は両眼でみているので、一方に視野欠損が拡がっても、もう片方の眼でカバーしてしまうので気づきにくいです。緑内障で一度欠けた視野は二度と戻りません。そのため、早期発見・早期治療が大事です。

緑内障の治療は、点眼薬による治療が主です。毎日忘れずに点眼することで、眼圧が低く安定し視野欠損の進行を抑えられます。

40歳以上で、眼科にて緑内障検診を一度も受けたことがない方は、ぜひ近隣の眼科を受診することをお勧めいたします。

福田眼科
〒247―0072
鎌倉市岡本2―1―10（プロシードビル2F）
☎0467・38・8603

鎌倉てらこや ㉕

「本気」を積み重ねる―みんなで朗読100周年記念特別朗読会

小木曽　駿

委ねられた陽光のもと、薫風に乗って、声が漏れ聞こえてくる。

「あ・え・い・う・え・お・あ・お―！」。

子ども・保護者・大学生が一緒になって行う発声練習から「みんなで朗読」は始まる。円覚寺で毎年繰り広げられてきた光景だ。2006年に始まった「みんなで朗読」は、今年で10周年を迎えた。そこで5月8日に記念の「特別朗読会」が実施された＝写真。

まず特筆すべきは、臨済宗円覚寺派管長・横田南嶺老師に特別法話をいただいたことだ。老師は坂村真民さんの詩の朗読を交えて、「念ずれば　花ひらく」という言葉を紹介された。

講師の季田弘子・中里貴子両先生の本物の朗読の披露もあった。それに加え、活動に参加されてきた皆さんに朗読を発表してもらった。参加者の朗読にもたくさんの「本気」がきらきらと溢れていた。中でも小学校高学年、中学生となった子どもたちが、多くの聴衆の前で堂々と発表していた姿が印象深い。初参加の際、自己紹介すらできず、泣き出してしまう子も魅れて入学した生徒も多かったようです。

「本気」を積み重ねた。この言葉には、若くして夫を亡くした真民さんのお母様の、「5人の幼い子どもたちを、何としても育てていく」という、強い想いが籠められているという。強い想いを持ち、「本気」で取り組み続ければ、自然に大輪を咲かせられることを教われた。

10年という月日は、朗読に「本気」で取り組み続けてきた、積み重ねそのもののように思う。

「本気」は、鎌倉てらこや活動当初から、最も大切にしてきた大切なテーマである。「みんなで朗読」を、10年に渡り続けてこられたのも、関わってきた皆様の「本気」を頂戴してきたからだ。その有り難さに感謝申し上げるとともに、これからも初心を忘れず、より大きな花をひらかせていけるよう、みんなで、朗読に「本気」で向き合い続けていきたい。

鎌倉てらこや事務局
☎0467・84・9746
（平日13～17時）
http://kamakura-tarakoya.net/

新刊書

『声の文化史―音声読書としての朗読』

原　良枝　著

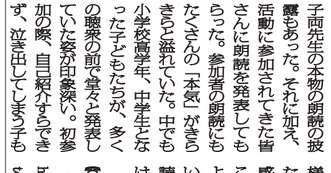
始めに、朗読をすると、きの「声」の果たす役割や発声のメカニズム、「読むということの意味、朗読を聞くことは気持ちがいいのか」を考察する。

さらに、声の芸能の系譜をたどり、朗読の誕生、教育との関連を述べ、脳科学や教育心理学の領域での実験結果もとに、朗読の効用を提示する。

著者は小学生の頃、ラジオ番組で時の朗読を聞いて、声の素晴らしさ、読むことへの関心が芽生え、アナウンサーになった。その後、朗読についての疑問が尽きず、50歳を前にして朗読を研究することを決断し、早稲田大学大学院社会科学研究科に入学。朗読研究の博士論文を仕上げた。今の、はその論文に加筆し、編集したもの。

4212円、成文社刊

☎03・3203・9201



『畑の一年』

向田　智也　著

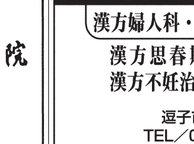
鎌倉市坂ノ下在住の向田智也さんの絵本「畑の一年」が発行された。里山の一年をテーマにした『田んぼの一年』『雑木林の一年』に続く、第3弾で、今回のテーマは「畑」。

絵本と生き物図鑑、畑での一年を通して作物や植物の成長、生き物を紹介し、人の文化や生活と共存する身近な自然を表現している。

著者はNPO法人「鎌倉広町の森市民の会」理事。同団体が保全活動している鎌倉広町緑地で里山の復元活動に参加している。

1512円、小学館刊

☎03・3230・5451

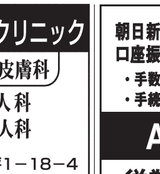


『日本は近代思想をやり直せ』

平井　嵩　著

平井嵩さんは、「そのために鎌倉を新しい知の発信地にしたい」と話す。1728円、図書新聞刊

☎03・3234・3471

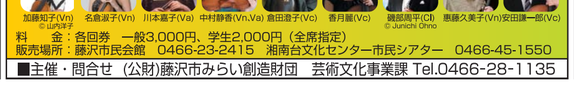


新築　土地活用　耐震改修
お問合せは ☎0467(24)3700
seiko 清興建設株式会社　鎌倉市大町1－10－6
http://www.reformplus-kamakura.com

明治37年創立
学校法人 鎌倉女学院
中学校・高等学校
心身ともに健康で
国際性豊かな人間教育
〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜2丁目10番4号
電話(0467)25-2100(代表)

ゆみ中医漢方クリニック
漢方婦人科・漢方皮膚科
漢方思春期婦人科
漢方不妊治療婦人科
逗子市小坪1－18－4
TEL／0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
診療時間
午前：　9:00～11:30（火～土）
午後：14:00～16:30（火・木・土）
予約制・各種健保扱・自費診療有

朝日新聞の購読料は口座振替で
・手数料は一切不要
・手続き簡単
ASA
従業員募集
詳しくは最寄りのASAへお問合せを
・専業従業員
・婦人パート
・学生アルバイト

藤沢にゆかりのある音楽家たち 2016
Vol.1 ミューズの響演 ～天上の調べ～
7月10日(日) 開演14:30(開場14:00)
湘南台文化センター 市民シアター
出演　加藤知子(Vn) 名倉淑子(Vn) 川本嘉子(Va) 中村静香(Vn,Va) 倉田澄子(Vc) 香月麗(Vc)
曲目　ブラームス：弦楽六重奏曲第1番変ロ長調Op.18 ほか
Vol.2 クラリネットの微笑み ～弦の調べに寄せて～
9月29日(木) 開演19:00(開場18:30)
藤沢市民会館小ホール
出演　磯部周平(Cl) 名倉淑子(Vn) 惠藤久美子(Vn) 中村静香(Va) 安田謙一郎(Vc)
曲目　モーツァルト：クラリネットと弦楽四重奏のためのアレグロ変ロ長調K.516c（Anh.91） ほか


料　金：各回券　一般3,000円、学生2,000円（全席指定）
販売場所：藤沢市民会館　0466-23-2415　湘南台文化センター市民シアター　0466-45-1550
■主催・問合せ（公財)藤沢市みらい創造財団　芸術文化事業課 Tel.0466-28-1135